

関連語の提示による
日本語文章作成支援に関する研究
A Study of Related Word Presenting Method
for Writing Japanese Articles

岡田 仁之

メールはもちろん、ブログや掲示板など、インターネットを介したコミュニケーションが拡大している。インターネットはその大部分をテキストが占める。日常生活でテキストを書く機会が格段に増えた。テキストによるコミュニケーションは、対面のコミュニケーションと比べて情報量が限られ、誤解のないコミュニケーションを行うには、送信するメッセージを慎重に吟味する必要がある。従来、テキストを使ったメディアは、新聞や書籍など、専門家によって慎重に編集されていた。しかし、日常生活でのインターネット利用の拡大にともない、専門家でない者の手によるテキストに触れる機会が増加した。ブログの炎上や掲示板でのいさかいは、よく吟味されないまま大衆の目に晒されたテキストが引き起こした問題である。

本論文では、このような問題に対処する為に、適切な言語表現を用いた日本語文章の作成を支援する方法について述べる。本研究の目的はテキスト作成における言葉選びの過程を支援する事である。また、適切な語の選択の際に考慮すべき事として、テキストが与える印象や論調が重要である。

印象や論調に関する研究では、質問回答サイトに投稿された記事と新聞記事を対象に、単語への「なじみ」を示す単語親密度を用いて分析を行った。関連語の取得には、Wikipediaのリンク構造を用いた。Wikipediaの見だし語と内部リンクを用いて単語間の関連度計算を行い、入力した単語の関連語を提示するシステムを実装した。

これらの分析と実装により、適切な言語表現の推薦の実現性を確認することができた。

(指導教員 佐藤 哲司)